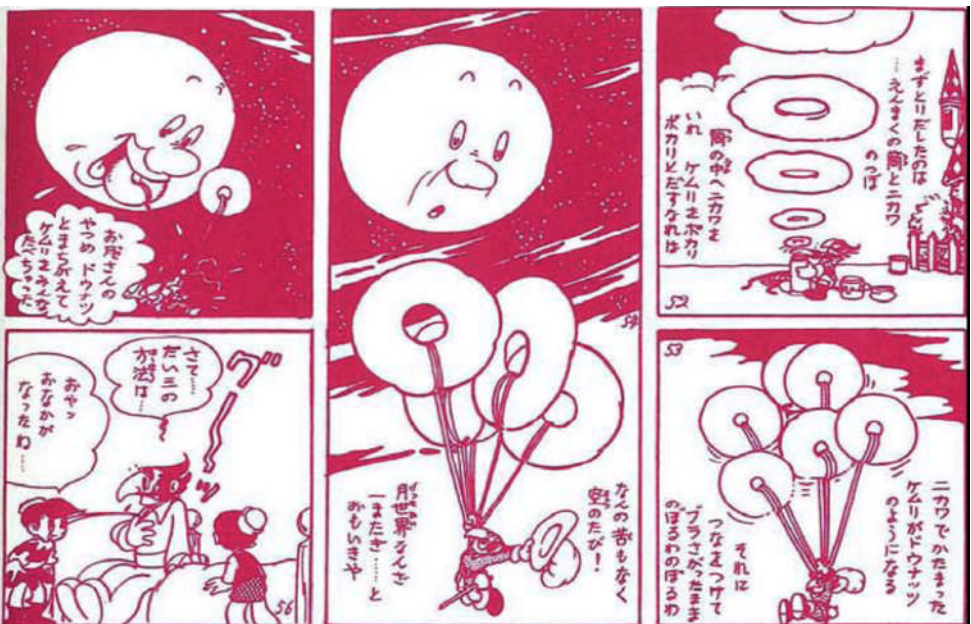


手塚治虫作品『怪傑シラノ』の語注解

世界に名高いフランスの名作劇『シラノ・ド・ベルジュラック』。原作はエドモン・ロスタン。脚色手塚治虫で書き始められました。雑誌「少年画報」（一九五三年三月号の予告）が半裁で掲載されています。この主人公は、騎士道はなやかりしころの世に希なる大豪傑シラノ・ド・ベルジュラックなのです。



天体「月」の擬人化表現

54齣・55齣

まずとりだしたのは…えんまくの筒とニカワのつぼ。ニカワでかたまったケムリがドウナツツのようになる。それは、つなをつけて ブラさがった

このお月さんには、眉毛・目・鼻・口が描かれて妙に馴染みやすい光景を此処に作り出しています。

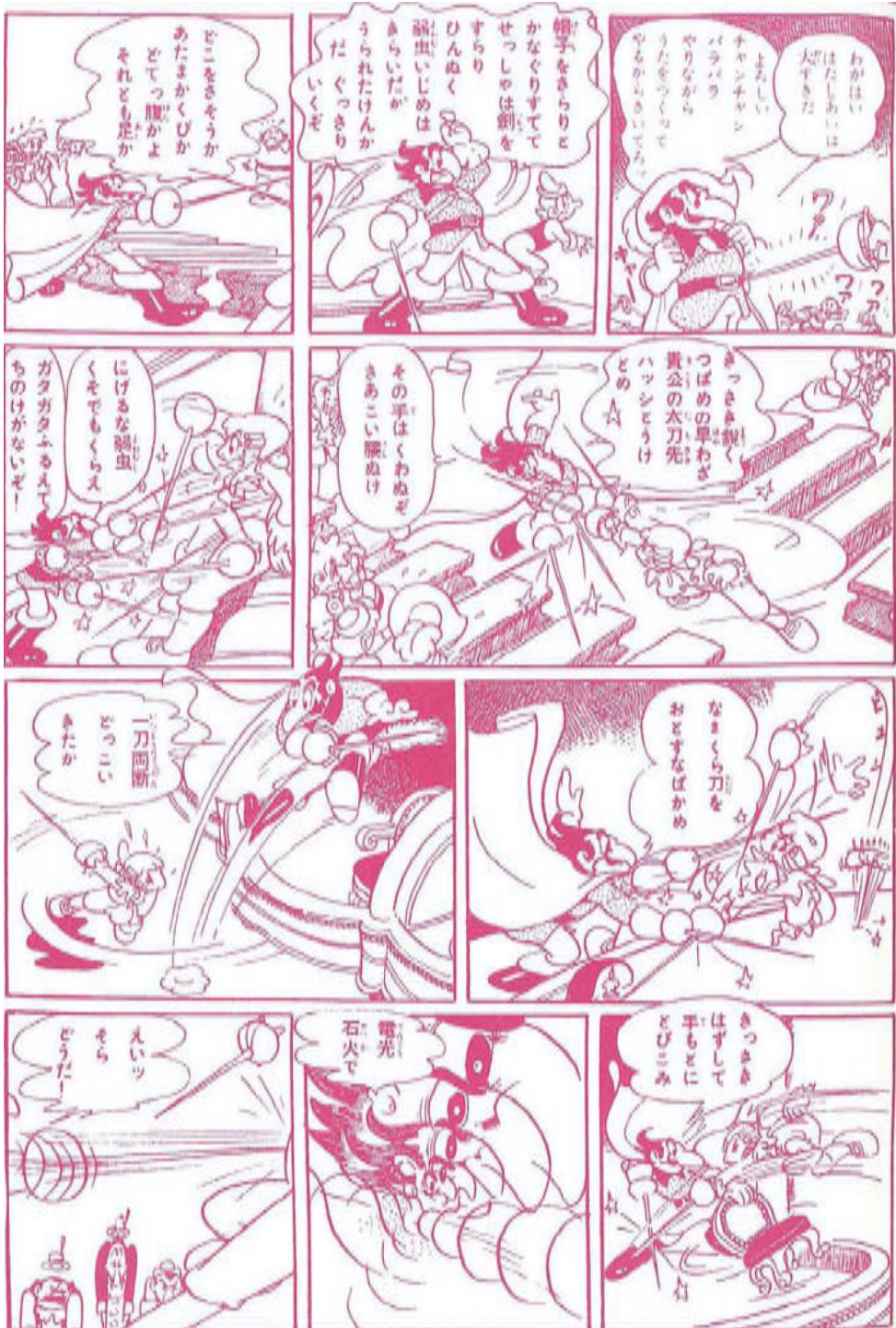
「なんの苦もなく空のたび！」「月世界なんざ一またぎ…とおもいきや」〔54齣〕

「お月さんのやつめ ドウナツとまちがえてケムリをみんなたべちやった」〔55齣〕



文言の重層置き換え表現

- 1, けんかごしでいうならば……「やい その鼻が拙者の鼻ならぬくてもみせずバツサリきつてすてるわい」
 - 2, 物語風にいうならば……「その鼻は岩であり……山であり 岬であり……」
 - 3, お上品にいえば……「私の大事なこの小鳥 あなたの鼻へとまもらせて」
 - 4, 学者風にいえば……「世界でただ一匹の奇獣 象よりも奇怪な鼻の持主」
 - 5, いろはガルトタ風にいえば「ころばぬ先の鼻」
 - 6, いなか者がいうならば……「へエ！こりや 鼻じゃねえだ でつ けんかブラだア」
- とぎつとこのくらしい悪口は ちよつとぐらしいこうなら いえないもんだ 貴公なんか まの字とぬの字とけの字ぐらしいしか もちあわせがないだろう。



わがはい はたしあいは大すきだ。よろしい チャンチャン バラバラ やりながら うたをつく
つて やるからきいてろッ

① 帽子をさらりとかなぐりすててせつしやは剣をすらりひんぬく弱虫いじめはきらいだがうられた
けんかだ ぐっさりいくぞ。

② どこをさそうか あたまかくびか どてつ腹かよ それとも足か

③ きつさき鋭く つばめの早わざ 貴公の太刀先 ハッシとうけとめ

④ その手はくわぬぞ さあこい腰ぬけ

⑤ にげるな弱虫 くそでもくらえ

⑥ ガタガタふるえて ちのけがないぞ！

⑦ なまくら刀を おとすなばかめ

⑧ 一刀両断 どっこい きたか

⑨ きつさき はずして 手もとに とびこみ

⑩ 電光石火で

⑪ えいッ そら どうだ！

※この独白調のせりふは、主人公シラノ・ド・ベルジュラックが剣を交えながら唄うという設定にな
っているが、果たして歌の語調になっているかを見ておこう。七五調の趣きに仕立てているものの、
語調は旨くない。だが、紙芝居風に詠んで、この勢い盛んな剣戟シーンに併せてこのせりふを朗読し
てみるとよからう。

次に、唄う場面が描かれています。二つのうたのはじまりは、「あー」と「ああ」の感嘆詞ではじ
まりますが、このうたはうたでも恋の歌なので、当然哀愁をそそるものでなければなりません。





「アイスクャンデー」売りの聲
 小学館『日本国語大辞典』第二版に、
 アイス・キャンデー〔名〕〔洋語〕ice candy 元来、商品名) 氷菓子の一種。
 果汁、砂糖水などを凍らせた棒状の菓子。《季・夏》*アルス新語辞典〔一
 九三〇〕《桃井鶴夫》「アイス・キャンデー ice-candy 円形棒状氷菓子。近来
 発売される子供相手の一種の氷菓子。和製英語」*浮雲〔一九四九〜五〇〕
 《林芙美子》三八「店先には大きい青ペンキを塗ったアイスクャンデーの箱
 があり」【発音】《標ア》「キヤ」《京ア》「キヤ」

場面にそぐわない「アイスクャンデー」売りが登場させ、読者を現実の日
 本の社会風刺世界に呼び戻して、マンガの登場者クリスマスチャンにこの人物と
 を絡ませて描き出すことで、この話がより日本的な感を際立たせています。
 時代考証といった堅苦しさを脱却したストーリーづくりが脚色家としての手
 塚治虫の凄さでもあります。このクリスマスチャンの足取りを一本の線をくねら
 せることでもものの美事に描き出しています。



終わり方がこれまた、役者が衣裳替えをするかのように、
 クリスチャンを演じていたサポテン君は、騎士の衣裳を
 脱ぎさると、再び西部活劇のスタイルに早変わりしてい
 きます。

『怪傑シラノ』は前編おわりとなりました。後編をご自
 身創作してみる

◇笑いのシーン

